

Smile 庄内

岡山市立庄内小学校
学校だより No.9
令和4年7月6日発行



しょうじき なかよし いっしょうけんめい いのちだいじに

ぶんえい せきぶつ 文英石仏の話

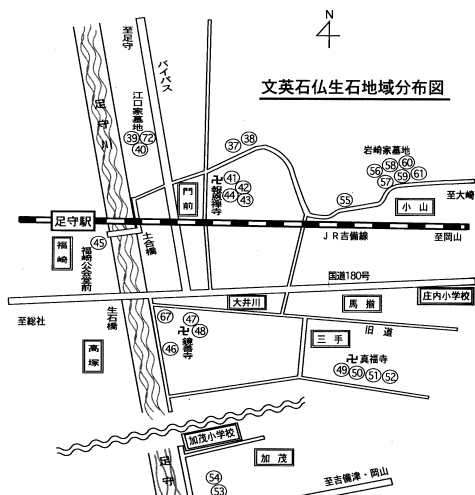
庄内小学校に勤務する前から、私はこの庄内の地を何度か訪れていました。というのも自転車にのるのが趣味で、吉備路のサイクリングコースをよく走っていたのです。高松城址や最上稲荷も魅力的でしたが、特に惹かれたのが「文英石仏」でした。庄内学区の田んぼの中や城址・古刹の片隅にポツンと置かれた素朴な仏像になんとも不思議な魅力を感じていました。

「文英石仏」というのは、戦国時代にこの地の民衆によってつくられた線彫りの素朴な石仏です。文英というお坊さんがリーダーとなって制作されたので、「文英石仏」と呼ばれるようになりました。

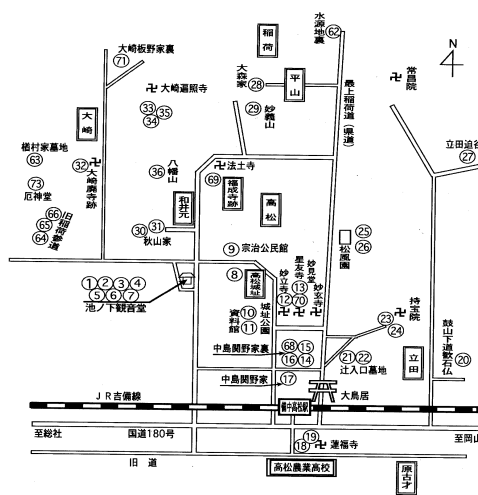
下の地図は、郷土史家の林信男さんが調べてつくった庄内学区の「文英石仏」の分布図です。70以上の「文英石仏」がこの庄内にあるのです。

戦国時代に、なぜこの庄内の地でこのような石仏がたくさんつくられたのか？文英というお坊さんはどんな人だったのか？詳しいことはまったくわかりません。ただ、多くの「文英石仏」は延命地蔵だそうで、「新しく生まれた子を守りその寿命を延ばす」という民衆たちの願いが込められているといます。武将同士の戦いが繰り返され、大きな戦場ともなったこの庄内の地に暮していた当時の人々の切なる願いが込められていると考えられます。約500年前の民衆の思いを想像していると、それがニュースで見たウクライナとロシアの戦争で逃げ惑う民衆の映像と重なり、平和への願いは今も昔もかわらないのだと改めて感じました。また、約500年もの長い間、その石仏を大切にしてきたこの庄内の人々にも思いを馳せずにはいられませんでした。

7月初めの朝会で、「文英石仏」の写真を見せながら、上のような話を子どもたちにもしました。



林信男「僧文英と石仏」P22,23 からの引用



文英石仏高松地域分布図

大崎廃寺跡の石仏
「文英筆」の文字も
刻まれている。

